



JAPAN LASER THERAPY ASSOCIATION



第24回

日本レーザー治療学会 プログラム・抄録集

2012年6月23日(土)・24日(日)

会長：井手 康雄

東邦大学医療センター佐倉病院 麻酔科

June 23-24, 2012

President : Yasuo Ide

Department of Anesthesia,

Toho University Sakura Medical Center Sakura 日

日程表

【第1日目】2012年6月23日（土）

	第一会場	第二会場
9:00		
10	開場・参加受付 9:00～	
20		
30	開会挨拶 9:30～	
40	会長講演 9:35～10:15	
50	「光線療法のエビデンスを求めて」	
10:00	座長：花岡一雄 演者：井手康雄	
10		
20	シンポジウムⅠ 10:15～11:45	
30		
40		
50		
11:00	「整形外科疼痛疾患における低反応レベルレーザーの治療効果」	
10		
20	座長：武者芳朗、大國生幸	
30	演者：大島 力、大日方嘉行、武者芳朗、砂川隆英	
40		
50		
12:00	ランチョンセミナー 12:00～13:00	
10		
20	「低出力レーザーとの併用が期待される痛みの治療」	
30	ーオピオイドによる慢性痛の治療ー	
40	座長：小川節郎 演者：濱口眞輔	
50	共催：久光製薬株式会社	
13:00		
10		
20		
30		
40		
50		
14:00	特別講演 13:45～14:45	
10		
20	「治療に役立つ（いまさら聞けない）レーザー医学」	
30		
40	座長：大城俊夫 演者：栗津邦男	
50		
15:00	シンポジウムⅡ 14:45～16:15	シンポジウムⅢ 14:45～16:15
10		
20		
30	「東洋医学を応用した低反応レベルレーザー療法」	「皮膚科・形成外科におけるレーザー治療1」
40		
50	座長：石丸圭荘	座長：山田裕道、畑 三恵子
16:00	演者：中澤寛元、澤田 規、前場和吉、石丸圭荘	演者：木村有太子、秋田洋一、園山悦子、荒木麻由子、上尾礼子
10		
20		
30		
40	ミニシンポジウム 16:30～17:45	シンポジウムⅣ 16:15～17:45
50		
17:00	「内臓機能に対する低出力レーザーの効果」	「皮膚科・形成外科におけるレーザー治療2」
10		
20	座長：榊原隆次	座長：大城貴史、飯田匠子
30	演者：榊原隆次、矢野 仁、井本信一	演者：三石 剛、王丸陽光、大城貴史、榎堀みき子、飯田匠子
40		
50		
18:00		
10		
20		
30		
40		

プログラム

テーマ「EVIDENCE BASED LLLT」

■ 特別講演

6月23日 第1会場 13:45～14:45

座長：大城 俊夫（日本医用レーザー研究所）

「治療に役立つ（いまさら聞けない）レーザー医学」

演者：栗津 邦男（大阪大学大学院 工学研究科）

■ 会長講演

6月23日 第1会場 9:35～10:15

座長：花岡 一雄（J R 東京総合病院）

「光線療法のエビデンスを求めて」

演者：井手 康雄（東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科）

■ 教育講演

6月24日 第1会場 9:30～10:30

座長：小川 節郎（日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野）

「エビデンスにつながる医療統計」

演者：長田 理（自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第2講座）

■ シンポジウム I

6月23日 第1会場 10:15～11:45

「整形外科疼痛疾患における低反応レベルレーザーの治療効果」

座長：武者 芳朗（東邦大学医療センター大橋病院 整形外科）
大國 生幸（東邦大学医療センター大森病院 リハビリテーション科）

SI-1 肘 手 指の慢性痛の低出力レーザー照射治療の報告
演者：大島 力（東邦大学医療センター大橋病院リハビリテーション科）

SI-2 腰椎椎間板ヘルニアに対する低反応レベルレーザーの治療成績
演者：大日方嘉行（大森赤十字病院整形外科）

SI-3 肩関節周囲炎に対する低反応レベルレーザー治療の効果
演者：武者 芳朗（東邦大学医療センター大橋病院 整形外科）

SI-4 低出力レーザー照射時の自律神経機能への影響
演者：砂川 隆英（東邦大学医療センター大橋病院 整形外科）

■ シンポジウム II

6月23日 第1会場 14:45～16:15

「東洋医学を応用した低反応レベルレーザー療法」

座長：石丸 圭荘（了徳寺大学 健康科学部 整復医療トレーナー学科）

SII-1 レーザーの経穴照射の文献調査ならびに経穴と非経穴の反応性
演者：中澤寛元 有馬 義貴（浜松大学 健康プロデュース学部 健康鍼灸学科）

SII-2 筋・筋膜性疼痛症候群に対するレーザー照射の治療効果
—トリガーポイント・圧痛点・経穴照射の比較—
演者：澤田 規（森ノ宮医療大学 保健医療学部 鍼灸学科）

SII-3 LED（近赤外線）療法における弾撥指の手技併用による臨床検討
演者：前場 和吉（せんば鍼灸治療院）

SII-4 東洋医学を応用した低反応レベルレーザー療法について
演者：石丸 圭荘（了徳寺大学 健康科学部 整復医療トレーナー学科）

■ シンポジウム III

6月23日 第2会場 14:45～16:15

「皮膚科・形成外科におけるレーザー治療 I」

座長：山田 裕道（国際親善総合病院皮膚科）
畑 三恵子（高野医科クリニック）

SIII-1 Nd:YAG レーザーの爪白癬に対する治療効果について：48 週間の経過観察研究による検討
演者：木村有太子（順天堂大学浦安病院皮膚科）

SIII-2 PDT の爪白癬治療
演者：秋田 洋一（愛知医科大学皮膚科）

SIII-3 ロングパルスアレキサンドライトレーザー治療後の網状皮膚疹
演者：國山 悦子（東大阪市立総合病院）

SIII-4 Q スイッチアレキサンドライトレーザーによる白斑治療
演者：荒木麻由子 江藤 隆史（東京通信病院皮膚科）

SIII-5 エキシマレーザーによる白斑治療
演者：上尾 礼子（関西医科大学付属枚方病院皮膚科）

腰椎椎間板ヘルニアに対する低反応レベルレーザーの治療成績

大日方嘉行¹⁾、石井 牧¹⁾、長谷川敬二¹⁾、齋藤 宗樹¹⁾、飯田 泰明¹⁾
小島 國利²⁾、岡島 行一²⁾、茂手木三男²⁾、高橋 寛³⁾、武者 芳朗⁴⁾

- 1) 大森赤十字病院整形外科
- 2) 木更津東邦病院
- 3) 東邦大学整形外科
- 4) 東邦大学大橋病院 脊椎脊髄病センター

【目的】腰椎椎間板ヘルニアに対する治療法としては、各種保存療法・手術療法が行われており、近年日本整形外科学会編集のガイドラインが出版された。当院では保存的療法の一つとして低反応レベルレーザー治療（以下 LLLT）を行ってきた。今回は治療効果について検討を加え報告する。

【対象および方法】2005 年から 2011 年までに当院で腰椎椎間板ヘルニアに対し LLLT 治療を行った 93 例（男性 62 例、女性 31 例）を対象とした。治療方法は、持田シーメンスメディカルシステム社製の半導体レーザー治療器メディレーザーソフト（波長 830nm、光出力 1000mW）を使用し、ヘルニア高位の椎間孔周辺に約 5 分間の照射を行った。併用療法として、混合ビタミン B 剤と疼痛の強い症例にのみ最小限の NSAIDs を使用し、大部分の症例に簡易コルセットの着用を行った。以上の症例に対して、照射直後の即時効果・最終診察時の長期効果について、自覚症状の改善度、SLRtest の改善の程度、筋力低下・知覚鈍麻の改善の有無により評価を行った。

【結果】即時効果について、自覚症状では 68 例（73.7%）に改善を認め、SLRtest でも平均 63.4° から 80.1° と改善を認めた。長期効果においても、SLRtest が 76 例（80.6%）で改善を認めていた。消失までの期間は平均 28.9 日であった。筋力低下は 54% の症例で、知覚鈍麻は 40% の症例で改善が認められた。長期経過で効果が認められなかった 17 例のうち、5 例に入院加療を行い、そのうち手術加療を要した症例は 2 例であった。MR 画像によるヘルニアの形態による分類では、subligamentous extrusion type で、改善不良の傾向がみられた。

【考察】LLLТ は、施行後即時に効果が認められ、侵襲も少ないという利点があり、欠点としては持続効果に乏しいことくらいである。長期経過においても、約 80% の症例で症状の改善がみられた。約 2 ヶ月の外来治療を行っても神経症状の改善が得られない症例は手術療法を検討する必要があるが、保存的療法の一つとして有用な方法と考えられる。

日本レーザー治療学会誌 Vol.11 No.1, 2012

発行 平成 24 年 5 月 28 日

事務局 日本レーザー治療学会
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路 upper 梶井町 465
京都府立医科大学 疼痛緩和医療学講座内
TEL : 075-251-5177
FAX : 075-251-5178

事務局長：細川 豊史

制作 有限会社インターフェイス
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-13 ラフィネお茶の水 1004
TEL : 03-3219-7020 FAX : 03-3219-7025
